

# 県士会ニュース

No.  
191

Kanagawa Association of Occupational Therapists —KAOT—

Contents

TOPIC

スポットライト ～ OT の生き方～

病院におけるロボットテクノロジー活用編 ..... 2

巻頭言.....	1	求人案内.....	11
研修会案内.....	3	作品コーナー.....	12
各部からの報告.....	4	編集後記.....	12
連載コラム ちょっと一杯どうですか?.....	10		



## 巻頭言

### 7月開催！！ 第3回神奈川県臨床作業療法大会

第3回神奈川県臨床作業療法大会 実行委員長 宮田 千恵子  
横浜 YMCA 学院専門学校



いよいよ第3回神奈川県臨床作業療法大会まで2か月を切りました。会員の皆様にもホームページ上で内容をご確認下さり、多くの方に事前登録いただいております。ありがとうございます。開催準備をしている実行委員一同、身を引き締めて最後の準備に取り掛かっているところです。

本大会テーマは「輝く未来を創る」です。作業療法士が関わるすべての人々の未来が輝くために、また作業療法士の未来も輝くことができるようにとの願いを込めています。企画委員会では、作業療法士が社会から求められているものや、臨床業務の中で気になるような内容を取り上げたいと、シンポジウムテーマを「気になる子どもたちへの支援の工夫」に決めました。しかし、発達領域に限ったテーマということでは決してありません。子どもから大人まであらゆるライフステージ、家庭・医療・教育・職場など様々なシチュエーションで、発達障害の方々と接する機会は少なくありません。領域を問わず、作業療法士としてどう向き合ったら良いか、戸惑いを覚え、試行錯誤した経験は誰しもお持ちではないでしょうか。教育・福祉・医療分野で活躍されるスペシャリスト、保護者会代表、企業経営者の方々をお迎えし、様々な立場から対象者を理解する視点をうかがいます。それぞれの臨床現場で障害児・者と関わる私たち作業療法士が、俯瞰的な視点を持ち、「よし！明日からまた頑張ろう」と活力を見出せる時間になりたいと思います。

演題につきましては、多数のご応募ありがとうございます

した。ワンホールでの開催のため、発表数を12題に絞らせていただきました。すべてが口述発表です。発達、身障、高齢、地域と多領域の演題で構成されています。ベテランの方から未来を担う若い世代の方々まで、幅広くご発表いただきます。また、関連書籍、全国初の福祉のチョコレート工房による販売、コミュニケーションロボットの機器体験等も企画しております。

本大会では、お子様連れで安心して参加できるよう、キッズスクエア横浜ベイホテル東急（みなとみらい）に託児室を用意します。大会事前登録された方のお子さま（生後3ヵ月から小学校6年生まで）を対象に、自己負担1000円、定員10名までご利用いただけます。大会事前登録期間（～6月30日）が申し込み期間となります。申し込み方法につきましては、大会ホームページをご参照ください。次の世代を担う若い作業療法士の皆様が子育てをしながらも自己研鑽の機会を持っていただくことを願っております。

それでは、7月29日はまぎんホールヴィアマーレでお会いできることを実行委員一同、楽しみにしております。なお、大会ホームページおよびFacebookを随時更新しておりますので、会員の皆様には最新情報についてご確認下さい。

● <https://kana-ot.jp/congress/kccot3rd/>



# スポットライト

～ OT の生き方 ～

## 〈 病院におけるロボットテクノロジー活用編 〉

今回は、ロボットテクノロジーを取り入れ先駆的な活動をされている先生にスポットライトを当てています。病院でのロボットテクノロジーの活用に至るまでの経緯、実際にOTへの活用方法について綴ってくれました。

磯子中央病院 木村 亮太 先生

スポットライト～OTの生き方～という貴重な機会をいただくことができ大変光栄に感じています。今回は磯子中央病院（急性期・回復期・外来などのケアミックス型の病院）でのロボットテクノロジーの導入と作業療法（以下OTとする）への活用について紹介します。

### ■はじめに

近年、「ロボットリハビリ<sup>®</sup>」という言葉が誕生する等、国内外でロボットテクノロジーが活用され始めています。また、機械工学や情報処理技術の発展により医療・介護分野においても、ロボットをはじめとして、医学と工学の連携やその技術の応用が進んでいます。さらに、国の施策である「経済財政運営と改革の基本方針2016」、「日本再興戦略2016」等においても、「ロボット」というキーワードが散見されています。

リハビリテーション（以下リハとする）領域においても同様に、ロボットテクノロジーをリハビリテーションの治療手段の1つとして確立されつつあります。リハ領域でのロボットテクノロジーは①人間装着型ロボット②生活支援ロボット③遠隔操作ロボットに大別されます。

今回、当院では人間装着型ロボットとして代表的なテクノロジーであるロボットスーツ HAL<sup>®</sup>を導入しました。導入の目的と実践まで経緯について説明していきます。

### ■導入の目的

当院には急性期・回復期・地域包括病床など様々な時期の患者さんにリハビリテーションを提供しています。地域の背景、診療報酬の改定などの要因により入院患者さんの質が変化しており、回復期病棟では重度障害や重複障害の患者さんが、地域包括病床では内部障害や神経難病の患者さんが増加しました。それに伴い、セラピストは様々な時期・疾患の患者さんに応じたリハが求められるようになりました。

また、磯子区の取り巻く医療環境として、回復期を有する病院は当院を含めて数カ所ありますが、3次救急病院は

区内にはなく、近隣の区に数カ所あるというのが特徴です。つまり、回復期病棟側は患者さんや急性期病院から選ばれる状況にあります。

当院を回復期病棟という視点で評価すると急性期病棟や診療科が多いことは有利な点ですが、リハビリテーション科自体の特徴（強み）は充分ではないと感じていました。

それらの背景に基づきリハビリテーション科内で検討し①重度障害・重複障害症例の日常生活能力の改善（質の高いリハビリテーションの提供）②セラピストの治療手段の幅を広げる③モチベーションの向上（新しい治療手段を学ぶ）④リハビリテーション科の特徴（強み）の構築を目的としてロボットテクノロジーを導入しました。

### ■実践までの経過

- ①リハ科内で新規事業を計画
- ②ロボットテクノロジーの検討
- ③運用方法を検討
- ④HALの導入研修（図1）
- ⑤HALチームでの運用開始  
プロトコル、評価方法、広報の方法などをチームで検討
- ⑥入院患者への導入（図2）
- ⑦HAL外来開始



図1 導入研修の様子



図2 HAL歩行場面

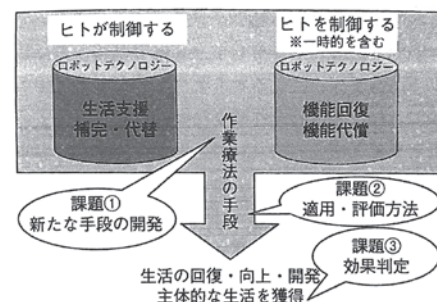


図3 現在の「作業療法のロボットテクノロジーの位置づけと課題」

### ■ロボットテクノロジーのOTへの活用

OTのロボットテクノロジーは「生活支援、補完・代替と機能回復、機能代償」として位置付けられています。(図3) 作業療法の学会発表や論文では上肢ロボットや義手に関するものが散見されます。HALは主に基本動作や歩行の改善を目的としており、一般的には作業療法ではあまり

活用できないと捉えてしまいます。

しかし、実際に活用した際には作業療法の治療手段の1つとして活用できると考えます。具体的には①PTと共に移動能力の改善②トイレ動作など立位を伴うADL能力の改善③下肢運動機能の改善④回復への希望(モチベーションの向上)などが挙げられます。入院患者さんへのHALでは主に①・②・③を目的に活用しています。HAL外来を開始し、神経難病の患者さんにHALを活用場面では患者さんから④に関する感想が大きいと実感しています。

■おわりに

当院のOTでは自宅退院だけでなく、クライアントに応じた社会復帰を目指すことを目標としています。社会復帰を実践するために医学モデルと作業モデルを融合した実践を目指し、作業療法介入プロセスモデル(OTIPM)を用

いています。ロボットテクノロジーは回復モデルに対応していると捉え、社会復帰の果たすOTの1つの手段として重要な役割を担っています。今後は上肢ロボットの導入を検討し、更なるADL能力改善、社会復帰を目的にOTでの活用を目指します。

■あとがき

今回は国策にもなっているロボットテクノロジーを病院に導入する目的と実践までを特集しました。みなさんいかがだったでしょうか。ご感想やご意見を募集しております。県士会福利部 <fukuri@kana-ot.jp> まで是非お寄せください。(なおこの記事は県士会WEBサイトにも掲載していますので、そちらもご覧ください。)

(文責：福利部 田中 達也)

## 研修会案内

●ポジショニング R.E.D. セミナー 理論編×実技編  
～微小重力環境でおこなう筋緊張制御～

主催：日本ユニバーサル リハビリテーション協会

日時：2018年6月3日

場所：八王子市芸術文化会館いちょうホール

URL：<http://universalreha.com/>

●脳科学根拠に基づく作業療法構築講座

主催：国際統語リハビリテーション協会

日時：2018年6月9、10日

場所：砂町文化センター 和室

URL：<https://iairjapan.jp/events/event/otseminar-tokyo>

●実践！ポジショニング・シーティング法

主催：療法士活性化委員会

日時：2018年6月17日

場所：ウィリング横浜

URL：<http://lts-seminar.jp/positioning/>

●湘南OT「認知症作業療法と新評価法」

主催：湘南OT交流会

日時：2018年6月23日

場所：神奈川県藤沢市辻堂神台1-3-39 オザワビル7F

URL：<http://shouanot.wixsite.com/shouanot/schedule>

●臨床シーティングセミナー 理論編×実技編  
～身近なものを利用してクッションを作ろう～

主催：日本ユニバーサル リハビリテーション協会

日時：2018年6月24日

場所：八王子市芸術文化会館いちょうホール

URL：<http://universalreha.com/>

●【触診が苦手な方限定】第7期 6日で学ぶ評価・アプローチのための触診セミナー BASICコース

主催：療法士活性化委員会

日時：第7期 2018年7月7、8日  
8月4、5日 9月1、2日

場所：ウィリング横浜 ゆめおおおかオフィスタワー

URL：<http://lts-seminar.jp/syokushinbasic/>

●触診・動作分析・報告書実技講習会

主催：国際統語リハビリテーション協会

日時：・1日目 2018年7月14日 10:00～16:00

・2日目 2018年7月15日 10:00～16:00

・3日目 2018年8月11日 10:00～16:00

・4日目 2018年8月12日 10:00～16:00

場所：1日目(板橋文化会館 第1・2和室) 2日目(成増アクトホール 5F和室)

3、4日目(板橋区グリーンホール 504会議室)  
URL：[https://iairjapan.jp/events/event/ryokatu\\_tokyo](https://iairjapan.jp/events/event/ryokatu_tokyo)

●第5回 日本臨床作業療法学会

主催：日本臨床作業療法学会

日時：2018年7月21、22日

場所：九州大学医学部 百年講堂

URL：<https://5thcot.jimdo.com/japanese/>

●脊柱圧迫骨折に対する評価とアプローチ

主催：療法士活性化委員会

日時：2018年7月22日

場所：ウィリング横浜

URL：<http://lts-seminar.jp/compressionfracture/>

●人間作業モデルについて知ろう！ ～初心者向け～

主催：千葉県作業療法士会 学術部 精神障害委員会

日時：2018年7月29日

場所：公益財団法人 復光会 総武病院

URL：<https://www.chiba-ot.ne.jp/events/event/1923/>

# 各部からの報告

## 学術部

### 学術部・福利部合同記事

#### ■今年もやります！

#### 学術部・福利部コラボレーション企画 スキルアップ研修&新入会員オリエンテーション・ 歓迎会！！

毎年恒例となりました、学術部・福利部コラボレーション企画、『スキルアップ研修&新入会員オリエンテーション・歓迎会』を6月17日（日）にイムス横浜国際看護専門学校にて開催致します。今年の学術部の研修は、「作業療法士はじめの一步～新人のうちに身につけたい作業療法の専門性～」と題して、ADOCの開発者であり、OBP（作業に焦点を当てた実践）の第一人者である友利 幸之介先生（東京工科大学 保健医療学部 作業療法学科 准教授）に講義をして頂きます。

講義後は同会場にて、福利部による新入会員オリエンテーション・歓迎会を開催致します。歓迎会では、昼食をご用意しておりますので、食べて・飲んで・たくさん話して、会員同士の交流を深めて頂きたいと思っております。もちろん歓迎会の参加費は無料！！です。県士会員であればどなたでも参加できますので奮ってご参加下さい。まだ会員でない方は、ぜひこの機会にご入会下さい。みなさんのご参加心よりお待ちしております。

#### ●学術部企画

「作業療法士はじめの一步～新人のうちに身につけたい作業療法の専門性～」

#### ●福利部企画

「新入会員オリエンテーション・歓迎会」

開催日時：2018年6月17日（日）

受付 9：15～、講義 9：45～、歓迎会・講義  
終了後～14：00まで

会 場：イムス横浜国際看護専門学校  
JR 横浜線 東急田園都市線「長津田」駅南口  
より徒歩7分

定 員：100名

受講料：2,000円

受講資格や参加申し込み等は県士会ホームページをご確認ください。

担 当：学術部 佐々木 秀一、福利部 玖島 弘規

### 学術部研究助成班からのお知らせ

#### ■平成30年度の研究助成事業の要項変更について

神奈川県作業療法士会の研究助成事業では、毎年2研究課題に対してそれぞれ最大20万円の助成金を出しています。この事業の目的は、神奈川県作業療法士会の発展に寄与する研究・実践についての知見を多くの会員間で広く共有することであり、最終的には論文投稿するまでを目標としています。平成30年度からは、若手を含めた様々な神奈川県士会員からの研究活動を活発化させるため、応募要項のうち研究代表者及び研究組織の要件を一部緩和し（下記の変更①を参照）、研究終了後の論文投稿は神奈川県作業療法研究に限定しました（変更②を参照）。

平成30年度における研究課題の公募期間は、5月1日から7月31日までです。興味のある方は、県士会ホームページで研究助成事業概要及び必要書類を確認して下さい。研究となると敷居が高く感じられますが、チャレンジしたいと考えている方に対して、学術部が相談に乗ることも可能です。質問や相談したことがある方は、[学術部研究助成事業班 kana-zyosei@kana-ot.jp](#) まで気軽にメールして下さい。また、学術部のホームページにも詳細を掲載致しますのでご覧ください。

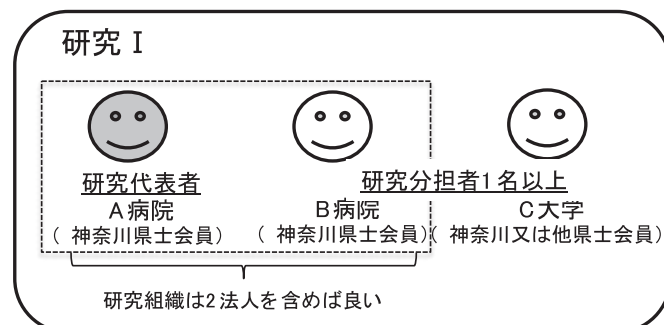
#### 【変更点①：研究代表者及び研究組織】

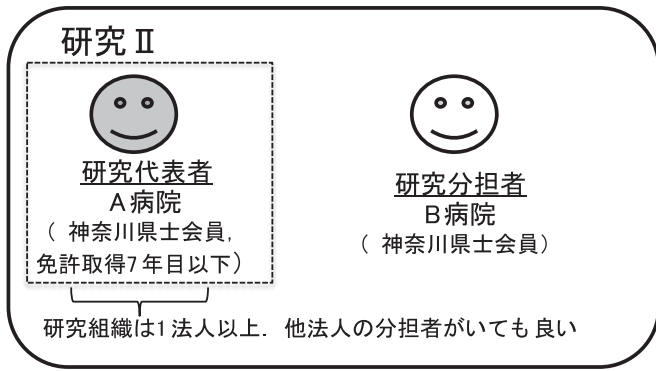
変更前：研究代表者は全神奈川県士会員。研究組織は 3法人以上 を含む。

変更後：（研究Ⅰ）研究代表者は全神奈川県士会員。  
研究組織は 2法人以上（研究分担者は神奈川県士会員を1名含む）。

（研究Ⅱ）研究代表者は免許取得7年目以下。研究組織は 1法人以上。

#### 【研究組織の例】





**【変更点②：研究終了後の論文投稿】**

変更前：神奈川県作業療法研究または日本作業療法協会機関誌

変更後：神奈川作業療法研究に限定

**■神奈川作業療法研究の編集長交代に伴い、論文投稿先のメールアドレスが変更になります！**

今年度から神奈川作業療法研究の編集長が交代になりました。当雑誌の編集長を5年間務めていただきました神奈川県立保健福祉大学の白濱勲二先生から、北里大学の幅田智也先生に編集長が交代となり、引き継ぎ作業が行われております。新体制に伴い、神奈川県士会学術部学術誌編集室の開設を行いました。そこで、論文投稿先のアドレスが変更となります。

今後は“神奈川県作業療法士会学術誌編集室” <kana-otkenkyu@kana-ot.jp> に投稿してください。投稿規定は今までと変更はありませんので、従来通りに送ってください。お待ちしております。詳細はホームページをご覧ください。

また、編集部員も随時募集中です。件名に「編集部員参加希望」とし上記アドレスに送ってください。作業は論文の内容だけでなく会計や編集企画や様々です。論文投稿に編集部員に奮ってご参加ください。

(文責：学術部長 佐々木 秀一)

**教育部**

連載 「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」

県士会ウェブサイトから質問ができます！

今年度最初の「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」です。

今春作業療法士国家試験に合格、就職された方、おめでとうございます。迎えた側の方も業務拡大や充実に向けて新たに動き始めたところではないかと思えます。

さて、このコーナーは、県士会教育部関連の情報をご案内していきます。教育部はOT協会の生涯教育制度に関する事業を主に展開しています。教育部の情報、特に生涯教育制度関連の研修会開催情報はこの県士会ニュースと県士会ウェブサイトを通じて発信されますので、しっかりアンテナを張っておいてください。

なお、本士会主催の事業、特に教育部関連の研修会に申し込むには、OT協会（協会）と神奈川県作業療法士会（県士会）の両会への入会と年会費の納入が必要です。研修会当日の入会手続きはできませんので、予めご入会、納入手続きをお済ませください。お近くの方にも広くお伝えください。

今号では、今年度開催予定の生涯教育制度関連の研修会をご案内いたします。

**1. 現職者共通研修**：生涯教育制度の必須基礎研修。毎年全10テーマ開催。

**2. 現職者選択研修**：生涯教育制度の必須基礎研修、領域別選択（身体・老年期・精神・発達の各障害領域より自由選択）。毎年2領域開催（今年度の開催領域は検討中です）

※神奈川県士会では、一年間で必須基礎研修が修了できるように企画、開催しています。

※今後の県士会ニュース、県士会ウェブサイトにて開催情報を順次ご案内します。

**3. 事例報告登録制度研修会**：協会への事例報告登録は、認定作業療法士申請に必須です。神奈川県士会独自開催の研修会です。

その他、研修会等参加証明書、県士会の役員や部員・委員などの県士会裁量ポイント、「作業療法」掲載論文・事例報告登録制度への登録事例等のポイント化手続きは県士会事務局にて随時受け付けています。なお、基礎研修修了、認定作業療法士、専門作業療法士関連の申請はOT協会です。ご不明の点はどんなことでもご連絡ください。県士会ウェブサイトからも質問ができます。

教育部 奥原 孝幸（神奈川県立保健福祉大学）  
046-828-2738（直）、kyoiku@kana-ot.jp

## 社会保証制度 災害対策事業班

### ■災害時の安否確認システム Q & A

前回のニュースでもお届けしましたが、安否確認の試験運用に多大なご協力ありがとうございました。最終結果ですが、なんと337名の参加をいただきました！本当にありがとうございます。さて、今号では、その試験運用のなかで頂戴した貴重な意見に対して、Q & Aの形でお答えしたいと思います。

Q. どんな目的で入力するの？

A. 神奈川県内で何らかの大災害が起こった場合、JRAT（大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会）と連携して支援にあたることとなります。その際、会員の皆様の安否を確認および神奈川県内の被災状況を把握しておくことで、より迅速な被災地支援に繋がっていきたくと考えております。

Q. OTの会員番号は災害時に分からないのでは？

A. 「会員番号」は必須の項目ではありません。ただ、この件に関して複数のご意見がありましたので、表示が分かりにくかったのだと思われます。必須ではなく、任意であることがより分かりやすくなるよう画面で表示を変更いたします。

Q. 災害で大変な時に入力できないのでは？

A. ご自身やご家族、ご利用者等の安全が確保され、ある程度状況が落ち着いた時からの入力で構いません。

Q. 本人が「死亡」という選択肢があるが、死亡してしまっていたら入力できないのでは？

A. このシステムは本人以外の方でも入力できるものです。安否を確認するシステムですので、「死亡」も選択肢の一つとして考えていきたいと思っております。

なお、現在この災害対策班は私と前任の責任者の大郷氏（現理事）の実質二人で運用しております。災害は支援する側にもされる側にもどちらにもなり得ます。震災等で、個人でまたは病院単位で支援をされた方も多いと思います。災害対策にご興味のある方、神奈川県士会の災害対策班と一緒に仕事をしましょう！ご興味のある方は下記までご連絡ください。

横浜市総合リハビリテーションセンター 西 則彦  
nishi.n@yokohama-rf.jp

## ウェブサイト管理委員会

### ■県士会サイトがスマホに対応しました

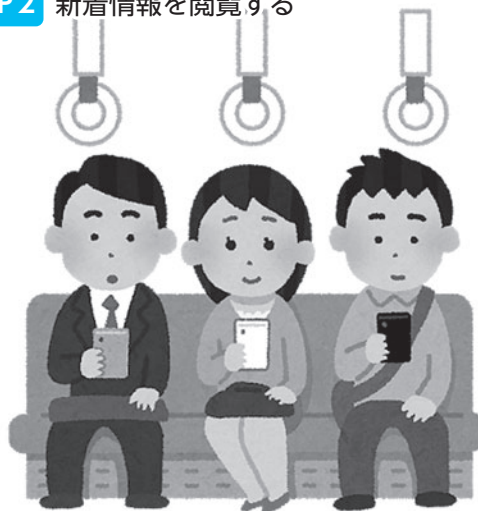
例えば、通勤途中に新着情報を簡単に確認できます。

#### STEP 1 新着情報の有無を確認する



- メールマガジン (メール)
- Twitter
- Facebook

#### STEP 2 新着情報を閲覧する



## 地域リハビリテーション部

### ■神奈川県建築士会主催 研修会

#### 賃貸住宅に暮らす脳卒中患者の退院時住環境整備

平成 30 年 2 月 24 日、神奈川県建築士会主催の「賃貸住宅に暮らす脳卒中患者の退院時住環境整備」研修会が開催されました。

神奈川県作業療法士会地域リハビリテーション部の遠藤理事が作業療法士からみた住環境整備に関して御講義され、その後賃貸住宅で生活されているケースの退院時住環境整備に関して事例を通してグループワークと各グループからの発表が行われました。

遠藤理事の講義では主に回復期リハビリテーション病棟で中心に行われている退院前訪問指導にしてお話をいただきました。住環境整備とは単純に段差を解消したり手すりを取り付けるなど表面的な行為ではなく、対象者の心身機能や活動レベルの予後予測や個人特性などを踏まえて、生活の質を向上させる「一つの手段として」実施されるべきものであるとのことでした。また退院前訪問指導だけで改修をすべて解決しようとする、後々実は不要な改修になってしまったなどの事態を招く恐れもあり、特に予後予測が極めて重要なこと、そして生活期で介入するセラピストに思い切って任せてしまうことも手段の一つとして知っておくべきことだとお話しされておりました。「住宅改修は対象者の自己実現のために行われるべきもの」との言葉には、遠藤理事の幅広い経験に裏打ちされた重みを感じる時間となりました。

グループワークでは建築関係者及び PT・OT の多職種グループが形成され、普段接することが少ない職種の集まりということで非常に賑やかに進行されました。賃貸住宅の住宅改修とのことで「原状回復」がキーワードとなりましたが、木部には手すりが設置できることが多く UR 住宅では許可されている事例があること、大家さんによっては改修に対して前向きに検討して下さる可能性があること、手すりの部材によっては許可されることもある、吸盤式や磁力のある手すりは外泊時や一時的な評価やデモンストレーションとして生かせることなどなど建築士ならではの知識が多く聞かれ、明日からの臨床でも生かせそうな知識を得ることができる有意義な時間となりました。

療法士の参加人数が少なかったこともあり、次回以降の研修ではぜひ多くの療法士に参加していただければと思います。

### ■PT・OT・ST 県士会主催

#### 地域包括ケアシステム三団体合同研修会

平成 30 年 2 月 25 日、神奈川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会合同による地域包括ケアシステム三士

会合同研修会が横浜ワールドポーターズで開催されました。

各士会から 70 名近くの会員が集まり、そのうち作業療法士会からは 32 名の参加がありました。研修会は約 3 時間でありましたが、多職種協働による共生社会の実現に向けた地域づくりについて考える充実した時間でした。神奈川県高齢福祉課による県内における地域ケア会議の開催状況や地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた計画についての報告から始まり、神奈川県医師会、神奈川県歯科医師会、神奈川県薬剤師会による地域包括ケアシステムの構築に向けた各職能団体の取り組みとリハビリテーション専門職への期待についてシンポジウムが行われました。

高齢者の誰もが元気で長生きできる神奈川を目指していくために、医師会からは在宅で生活する重度障がい者が就労や趣味活動に挑戦することを支援する専門職の相談・連携機能についての報告があり、歯科医師会からは誤嚥性肺炎や歯周病の予防から健康で活動的な在宅生活を切れ目なく支える医療の提供に向けて、リハ専門職との協働のあり方について具体的に提案をいただきました。また、薬剤師会では残薬の調整や健康状態の管理をセルフコントロールできるような仕組みを地域ぐるみで展開している興味深い取り組みを教えていただきました。

障がいの有無や程度に関わらず、誰もが自分らしさを選択できて健やかな暮らしを続けることができるよう、生活機能を多面的な視点で捉える私たち作業療法士が地域で暮らす方の『生活』にもっと寄り添い、地域共生社会の実現に向けて“+αできること”を考える研修となりました。



## ■地域リハ部主催 難病リハビリテーション講習会

平成 30 年 3 月 11 日『難病リハビリテーション講習会』が開催されました。

『難病疾患に対する呼吸管理基礎』では、理学療法士の吉本麻美先生により、基礎から日々の業務で活用できる内容までご講義頂き、呼吸リハビリは、コンディションを整え ADL につなげることが重要であり、介入したことにより、対象者が介入後どのように過ごせるかが大切だと学びました。

午後から『難病疾患に対する作業療法』で、作業療法士の田中ゆかり先生により、その人らしく生き抜くための支援について、ALS 患者の事例を用いご講義頂きました。病状の進行を予測し、本人や家族の希望に沿い、訓練や様々な装具や機器の導入をされていました。最後に『支援機器に触れてみよう』では、コミュニケーション支援機器、上肢装具を体験することができました。

今後、生活マネジメントの視点が重要とされている中で、介入直後から病状進行まで予測し、それに沿った生活を提案できることが大切だと感じました。



## ■神奈川県主催

### リハビリテーション専門職等介護予防指導研修会

高齢者を支える地域包括ケアシステムは深化の段階に入り、一層身近な存在となってきた。

地域に応じた対応が求められるため、市町村さらに詳細に地域の状況や高齢者の生活を理解することが示されました。総合事業や地域ケア会議など活動の場は広がってきた。

介護認定の割合では、要支援～要介護 1 が約半数に上り、さらに特定高齢者も増えてきており予防に重点が置かれてきた。健康高齢者への介入、住民主体とした集団に対する介入について先進事例や各職種の参入が多く研修会では報告されていて地域リハビリについて良い学び場となった。

多職種が連携して取り組む中、地域のニーズに応えられる職業アイデンティティを育て、ノウハウを身につけ、専門職として地域に貢献できることを示す時期に来ていると感じる研修会となりました。

いまリハビリテーションは注目されており、診療報酬、介護報酬が改定されたばかりですが、この 2、3 年の結果がもたらすものは大きいものと感じた。我々の多くが普段関わる保険制度のその先まで見渡し、制度のメッセージに耳を傾けていければとならないと感じた。

## ■地域ケア会議や介護予防事業に参加している方いませんか

各市町村で総合事業の取り組みが本格化してきています。会員の皆様も地域事業に関わる機会が増えてきますので会員の皆様からも情報を得ながら県士会の事業も進めていければと考えています。ぜひ、会員皆様からも作業療法士が関わっている地域事業がありましたら情報提供をいただければと思います。地域リハ部だけでなく県士会全体で情報共有していければと思いますのでご協力の方をよろしくお願いいたします。

ご意見や情報がありましたら下記のメールアドレスまでご連絡をいただければと思います。

【問い合わせ】 地域リハビリテーション部

E メール：chiikireha@kana-ot.jp

(文責：遠藤 陵晃)





## 地域包括ケアシステム推進委員会

### ■作業療法士による地域づくりシンポジウム

3月に神奈川県作業療法士会地域包括ケアシステム推進委員主催の「作業療法士による地域づくりシンポジウム」が開催されました。今回の研修会は実際に医療保険・介護保険外で活躍されている作業療法士に登壇頂きました。今回は光プロジェクト株式会社代表取締役杉村卓哉さんと株式会社モノ・ウェルビーイング松井智明さん、そして当委員会の担当理事大郷より地域包括ケアシステムの中で作業療法士がどう働いているのか、また当委員会の取り組みについての講話がありました。

光プロジェクトの杉村さんからは鳥取県雲南市で取り組まれているショッピングリハによる地域づくりの講義でした。元々は回復期に務められ、ある日患者さんに使った歩行器からショッピングカートの研究して、町の商業施設で使ってみるともっと社会の役に立てるのではないかという思いから、行政や企業を巻き込み株式会社を立ち上げたという話など熱く語って頂きました。次にモノ・ウェルビーイングの松井さんからは会社で取り組んでいるスウェーデンの作業療法士の考え方や作業療法士では珍しい自費での訪問リハを実践していくに当たっての作業の捉え方をわかりやすく丁寧に語って頂きました。そして三人目は理事の大郷より地域包括システム推進委員会の取り組み①横浜市地域リハビリテーション活動支援事業について②本事業に

おける作業療法士の役割③地域支援実践例について講話がありました。当委員会の横浜市地域リハビリテーション活動支援事業を活用して目指す地域の姿としては要介護状態になっても参加し続ける事のできる通いの場を展開していく事や、介護予防に関わる者の介護予防ケアマネジメント力の向上を目標としています。作業療法士はコミュニケーション・ライフスタイル・コミュニティを支援していくことの出来る専門職の一つであると参加者に伝え「興味のある方は一緒に活動してみませんか？」と地域支援に火をつけていました。

最後には講師3名による「ぶっちゃけシンポジウム」も開催され、普段聞く事のできない保険外サービスの深い所まで聞く事ができましたし、会場からは多くの質問が出て会場の温度がどんどん熱くなり最後は会場に一体感が生まれたように感じました。

現在当委員会では、介護予防事業や地域ケア会議などの活動が多くあります。しかし地域からの要望に答えるには更に人員の確保や増員が必要です。今年度も始まりました、事業は待ったなしです。横浜市地域リハビリテーション支援活動事業を活かして社会貢献してみませんか？ぜひお待ちしております。何卒ご協力して頂けるようよろしくお願い致します。

(文責：大郷 和成)





## ちょっと一杯 どうですか？

No. 6 作業すること



『おじちゃん』って近所の子供たちに呼ばれている私も、自宅近くの病院に勤務する作業療法士。病院では、誰から『〇〇先生』と呼ばれている。

何気なく過ごしている毎日も、いつもの道をいつものように何の迷いもなく通る。『今日』があるからできること。明日の事を考え思うのは、今日を迎えたから思うこと。明日への期待は、今日があるから感じる。昨日のことは、必ず今日に活きているし、連続性のあることだと振り返れる。毎日が大事で一生懸命。自分のことだけでなく、他人のことも視野に入れ、困っていれば手を差し伸べる。“ありがとう”のひとことが意味を成す。

毎日診療をしていると、ふと微笑ましい瞬間が沢山あるもの。やっぱり作業療法士になって良かったと思う瞬間。自己満足ではなく、この体験や経験を学術に活かさないと作業療法は発展性がないと思っているので、最近は学会でナラティブな症例発表をしてみたり、聞いたりするのがなんだか心地が良い。

ここ最近増えてきたなあ…と思う領域に「悪性新生物」所謂「がん」患者さんが多くなってきた印象がある。がん患者は特に化学療法や疼痛コントロールなど過酷な治療も多く受け入れざるを得ない状況が多々ある。味覚もおかしくなり、同時に臭覚も悪くなる。手足は痺れはじめ、倦怠感もある。『このところ、自分の体を見るのが辛くてね。みるみる痩せてくるのが分るんで…なんだかリハビリをやっても何のためのリハビリなのか分からなくなっちゃうんです。残された命を大切にして思うんですけど、こんな辛いのであれば、いっその事って考えちゃって…、でも皆さんが一生懸命治療をして下さっているのに、命を絶ってくれって言えないでしょ。そんなことまで考えちゃうんです。こんなことって、家族にも誰にも言えないことですが、先生にはつい話すことができるんで。正直、自分が変になっちゃう気がしてね…』と余命が決して長くない80歳の男性が言ってきた。私は“ポツリ”と『命を絶つリハビリは今までやったことはない。けど、命を感じるリハビリはやってきた。今できることを一緒にやりましょう!!』と伝えた。病院生活という非日常だからこそ、人の想いが凝縮される場面に作業療法士はよく遭遇すると思う。人が生きるための目的や目標を見失い、役割感を喪失するような、そんな

瞬間、我々はどんな言葉や表情、態度の引出しを持ちあわせているだろう。心の囁きを目の当たりにしたとき、心で返事をする。伝わりやすくするために素直な感情を言葉や表情で表現する。残された人生は最終的には自分で決めるものかもしれない、でも聞いてもらいたい人たちが多いの事実。家族にも、主治医にも、担当看護師にも相談できない相談。ふと自然に出てくる本音と向き合う時、なんとなくカウンセリングに近い作業がそこに生まれる。患者になって初めて解る自分の弱さと立ち向かったり、それをどうやって乗り越えるか考える努力をしてみたりするけど、正直これって日頃の生活ではよくあること。

死に向き合う患者。命に向き合う患者。我々は今一度、死や命と向き合う患者たちの価値観を共有するような深い学習が必要だ。それはきっと外界からの刺激も一切遮断し、唯一である自分はどう生きるか、あるいは相手はどう生きるかを清流の根底にさえ潜り探し出すような、実に辛い作業だと思う。がん患者だけではない。普段何気なく身に纏っていたものが目の前から突如無くなる瞬間は、絶大なる対象喪失を抱くに違いない。人は喪失感を抱くとき、防衛機制は破綻され、無感情となり、無意識に無機質の海底に沈みこむ。命を絶つことさえ無意識の境地で映像に落とし込む。悪性新生物の進行を力なく見守る驚異はまさに未来を剥奪する対象喪失の極限だ。作業療法士はそんな場面でどんな『作業』を提供できるのだろうか。仮に、がんという診断を宣告された大好きな親友が目の前にいたら、その時どんな『作業』を思いつきますか？ 聴く？ 話す？ 笑う？ 作る？ 創る？ 食べる？ 感じる？ 触れる？ 考える？ 見る？ 思う？ これらの『作業』には必ず“いっしょに”って言葉が付くかな。

命を感じる『作業』、そして“ありがとう”を伝える『作業』。

『作業』のもつ深い意味に改めて触れてみたい。

今回も登場した“おじちゃん”。OTを一生涯の仕事と決意し、長いOTの歴史と共に奮闘している“おじちゃん”です。あくまでもおじちゃん視点での作業療法学を織り交ぜた連載コラムです。面白エピソード満載です。次回もお楽しみに。

(文責：ペンネーム おじちゃん)

# 求人案内



## 医療法人社団 博奉会

1. 相模ヶ丘病院 (精神科・心療内科)  
相模原市南区下溝 4378 番地  
小田急線 相武台前駅から送迎バスあり  
JR 相模線 下溝駅から徒歩約 10 分
2. 就労継続支援 B 型事業所 クロプファ  
座間市相武台 1-35-25 プランドール壱番館  
小田急線 相武台前駅北口から徒歩約 2 分

募集人員：若干名 常勤  
 待遇：昇給年 1 回、賞与年 2 回 (昨年度実績)  
 交通費全額支給、退職金規程有、社会保険完備  
 給与：239,000 円～ (諸手当含む。住宅手当等当院規程により別途)  
 勤務時間：9：00～17：00  
 (配属部署により 12：00～20：00 勤務もあり)  
 免許：普通自動車運転免許あれば尚可  
 休日：年間休日 111 日 (平成 30 年度)、有給休暇、  
 夏期休暇 (3 日)、年末年始 (5 日)、特別休暇  
 応募方法：随時電話連絡の上、履歴書 (写貼) 持参又は郵送下さい  
**問い合わせ先**  
 TEL：042-778-0200 (相模ヶ丘病院)  
 Email：soumuhp002@hakuhou-kai.or.jp  
 勤務先は相模ヶ丘病院、就労継続支援 B 型事業所 クロプファのいずれかとなります  
 URL：http://www.hakuhou-kai.or.jp 担当者：採用係

## 戸塚共立リハビリテーション病院

活気のある明るい職場で一緒に働きましょう!!!

施設概要：病院 (急性期 50 床、回復期 50 床)  
 募集人員：3～4 名  
 就労期間：即日勤務可能 (急募中です)  
 応募資格：作業療法士免許を有する方  
 待遇：当院規定により優遇。経験年数加算。  
 昇給年 1 回。賞与年 2 回。  
 勤務時間：8：30～17：00  
 休日：シフト制により 4 週 8 休制  
 応募方法：電話連絡の上、履歴書 (写真貼付) を郵送  
 随時病院見学対応中  
 ※まずはお気軽にお問い合わせ下さい

### 問い合わせ先

〒245-0024 横浜市泉区和泉中央北 1-40-34  
 TEL：045-806-0321  
 Email：s\_uehara@tmg.or.jp  
 URL：http://www.tkr-hospital.com  
 担当者：上原

## 医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院

募集人員：若干名  
 応募資格：作業療法士免許を有する方 (新卒不可)  
 普通自動車運転免許を有する方  
 待遇：非常勤職員としての雇用です  
 給与) 2,000 円/時給  
 手当) 交通費相当分支給  
 社会保障完備  
 勤務地：訪問リハ鎌倉サテライト (鎌倉市浄明寺)  
 訪問リハ足柄サテライト (南足柄市竹松)  
 勤務時間：月～金 9：00～17：30 まで  
 ※頻度・時間等は相談に応じます  
 休日：土・日・年末年始  
 応募方法：電話連絡の上  
 ※まずはお気軽にお問い合わせ下さい

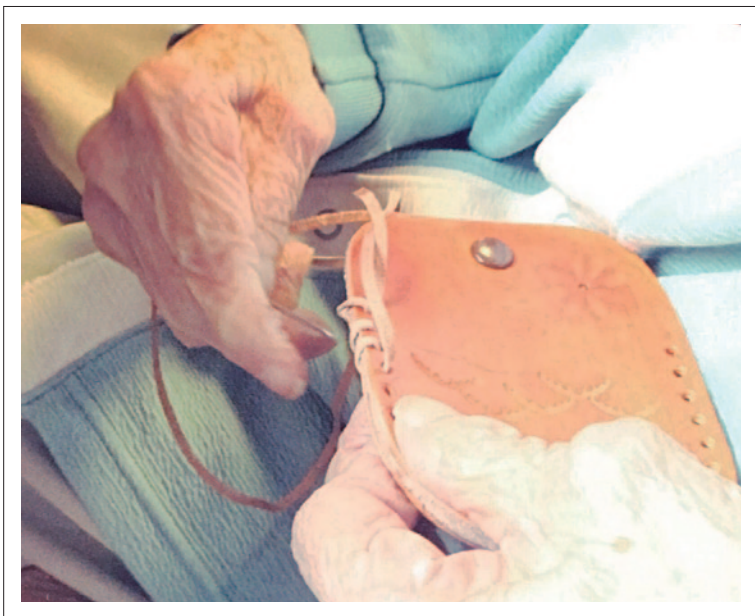
### 問い合わせ先

〒257-0001 神奈川県秦野市鶴巻北 1-16-1  
 TEL：0463-78-1326  
 Email：matsumoto-h@tsurumaki-hp.jp  
 担当者：松本 (PHS：9838)

## 作品コーナー

### 作品名 子供達へのプレゼント（革細工）

制作者 大島 節美 様（90歳代、変形性脊椎症・うつ病・アルツハイマー型認知症）



### 作品について

なにもできないと思っていたけれど、子供たちになにかあげたかったので、これを作れて良かったです。紐を通すのが難しいなあと思いましたが、色付けは綺麗にできました！子供たちが喜ぶといいなあ！

担当作業療法士：櫻井 利純 氏（医療法人中村会 介護老人保健施設 あさひな）

## 編集後記

巨匠スティーブン・スピルバーグ監督の新映画作が公開です（今号発行の頃は公開終了の時期かも…）。あのガンダム（RX-78）とメカゴジラ（三式機龍？）が闘う夢のようなシーンがyoutubeでも公開されていますが、キティちゃんも映画に出てくるらしい?? 71歳になったハリウッドの巨匠が、日本のキャラクターをふんだんに使った作品を製作するところをみると、本当に日本がサブカルチャーを支えているんだなと実感します。私は「オタク・デイサービス」という新しい領域で作業療法をするのが夢です。

（ぴぐめい）

## 一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース 〈191号〉2018年6月発行（年6回発行）

発行責任者 錠内 広之  
編集責任者 神保 武則  
編集担当 出口 弦舞（国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科）  
山岡 洸（湘南慶育病院）／佐藤 愛（新戸塚病院）  
安田 優子（横浜旭中央総合病院）／丸岡 ちひろ（済生会横浜市東部病院）  
井部 賢吾（ハートケア横浜小雀）／松井 洋鷹（淵野辺総合病院）

印刷 発送 株式会社高陽印刷所  
事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301号  
TEL/FAX：045-663-5997  
月火水木金 10：00～15：00  
メールアドレス：jimu@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト

<https://kana-ot.jp> → 作業療法 神奈川 検索

Facebook

<https://www.facebook.com/kaotwebkan>

Twitter

<https://twitter.com/kaotwebkan>

